

特別支援学校 学校評価一覧表②（令和4年度版）

（様式2）

羅針盤			関係する 分掌	達成度			改善状況のまとめ	次年度の課題
評価対象	評価項目	具体的数値項目		①	②	総合		
I 幼児児童生徒の地域における豊かな生活の実現に向けて努めていますか。	1 保護者、地域、関係機関に学校の教育活動について、具体的に伝えていますか。	①学校公開を年間4回実施し、来校者の90%以上が満足している。	教務企画	A	A	A	コロナ禍において、学校公開する対象を「保護者」と「その他」とに分け、2日間ずつ設定することで、密を防ぎながら実施することができた。来校者向けアンケートでは、本校の学習内容や生徒の活動の様子を知ることができて良かったとの意見を数多く頂戴した。	今後も小中学校の先生や地域・事業所の方に授業の様子を見て理解してもらえるように努め、小中学校から本校、そして社会へとつながる教育支援の流れを構築していく。
		②Webページや学校からのたより等で情報発信を行い、保護者の90%以上が満足している。	情報管理	A	A	A	今年度もコロナ禍で学校行事や保護者の参加が制限されたが、毎月発行する学年だよりは、生徒の活動写真を多く載せ、生徒の学習の様子を的確に伝えた。Webページでは、行事や学習活動の様子を写真にて随時情報発信を行った。保護者会では外部講師を招くなどし、進路関係を中心に情報発信を行った。	日本語を母語としない保護者や地域の方も理解できるよう、写真等を多用した情報発信を心がける。今後も本校の学習活動における最新情報が発信できるよう、組織的に取り組む。
	2 保護者、地域、関係機関との共通理解が深まり、有効な支援が行われていますか。	③「個別の教育支援計画」について、保護者の90%以上が内容に満足している。	学習指導	A	A	A	教育相談や保護者面談などを通して、本人や保護者のニーズを把握し、「個別の教育支援計画」に生かすことができた。次年度への引継ぎをスムーズに行えるように、年度末にかけて目標や実態などを入力していくよう周知した。	各欄について、空欄が無いように引き続き、教育相談や保護者面談を通して、本人や保護者の希望や要望を把握していく。また、入力済みの内容であってもその都度確認し、加筆修正をしていく。
		④交流及び共同学習について、年1回以上実施し、保護者や関係機関の90%以上が満足している。	交流教育	A	A	A	新型コロナウイルス感染症の影響で活動が制限される中であったが、感染症対策（密にならない、手指消毒、換気など）を行い、交流を行うことができた。また、交流する人数が多くなってしまった場合には、リモートでの学校紹介クイズを行い、有意義な時間を過ごすことができた。	交流活動を行う時期について、熱中症等の危険がある時期を避けるよう日程調整を行っていく。リモートで行う際には、通信が不安定な状況など不測の事態に対応できるよう準備しておく。
II 地域の特別支援に関するセンター的な役割を果たしていますか。	3 障害のある幼児児童生徒の教育について、助言援助に努めていますか。	⑤地域の高等学校等の求めに応じて相談・支援等を100%実施する。	コーディネーター	B	B	B	コロナ禍ではあるが、各高等学校のご厚意により桐生市・太田市の公立高等学校を中心に訪問相談を実施することができた。できる限り、対象生徒の実態や支援について情報共有が図られるよう、学年会への参加や校内研修講師をすることで、確かな情報共有に繋がった。	担当する全ての高等学校で訪問相談ができるよう、特別支援教育コーディネータとの関係構築に尽力し、支援の効果について粘り強く説明していく。
		⑥学校参観日・相談日を中心に本校への来校者を積極的に受け入れ、来校者の90%以上が満足している。	コーディネーター	A	A	A	学校参観日への参加者数が、昨年度のべ160人、今年度のべ208人であった。相談日への相談者数は、昨年度のべ39人、今年度のべ55人であった。来校者の90%以上が満足していると回答した。今年度は本校Webページより申込みする形式とし、同時に申込み状況が分かるように工夫したことで、申込み状況を確認した上で申込みしていただくことができた。また、夏季休業中に作業体験を、産業科向けと普通科向けの計2回実施し、参加者からは満足したとの回答を頂戴した。	今後も、地域の小・中・特別支援学校に参観日や相談日の通知を文書とWebページで行う。密を防げるように参観日や相談日の参加状況をWebで随時公開していくなど、新型コロナウイルス感染症対策も万全を期するようにする。本校には産業科と普通科の2つの科があるため、情報過多にならないよう、学校参観日の内容を精査し、参観者が見たい・聞きたい情報を提供できるようにする。
III 幼児児童生徒一人一人の実態に応じた適切な指導をしていますか。	4 個に応じたきめ細かな指導を行っていますか。	⑦「個別の指導計画」の内容について保護者の90%以上が満足している。	学習指導	A	A	A	教育相談や保護者面談などを通して、本人や保護者のニーズを把握した。また、学校生活の様子などから本人に身に付けさせたい力を検討、相談し、「個別の指導計画」に生かすことができた。	職員会議や研修等で職員の共通理解を図るため意義や作成方法について確認をし、記入例や参考例も資料として作成する。個別面談を実施し、保護者の要望をくみ取りながら話し合いを行う。卒業後の生活を意識した目標設定や支援方法を策定する。
		⑧運営委員会、学年会等において生徒の情報交換を毎回実施し、全職員で必要な情報共有をしている。	生活指導	A	A	A	職員会議、学年会等では必ず生徒の情報交換を行っているので学校全体で生徒対応をすることができた。校内でのいじめなど問題が大きくなることは無かった。	引き続き会議等で情報交換を行うだけでなく、研修等も行い、生徒理解に加えて対応方法なども学び、生徒の安全な学校生活を目指す。
		⑨生活習慣の定着を図るための家庭と学校が連携した取組に保護者の80%以上が満足している。	生活指導	B	B	B	1年を通して生活習慣の定着を目指し、生徒玄関に「あたりまえだけこの十カ条」や各月の重点目標を掲示したが、保護者への配布は年度初めに行っただけだったので認知度が上がらず、目標の80%は達成できなかった。	「あたりまえだけこの十カ条」の認知度を高めるためにも、引き続き掲示を行い、保護者には年度初めに配布するだけでなく、各月ごとに重点目標の配付も行う。
		⑩学校いじめ防止基本方針に基づいた本校の取組に対して、保護者の90%以上が満足している。	生活指導	B	B	B	校内では研修や会議等できいじめ防止に努めた結果、職員からは98%の支持を得られたが、保護者の方からは90%の支持は得られなかった。学校での取組や情報を十分に保護者へ伝えることができなかった。	校内での研修の結果、職員によるいじめ認知が向上したため、次年度は保護者に通知やリーフレット等で学校での取組や様子、有効な情報を詳しく伝えるようにする。
	5 指導内容の確実な定着を図る授業が行われていますか。	⑪授業改善のための研究授業・授業研究会を年間2回以上、研修会を年間7回以上実施している。	教務企画	A	A	A	予定していた校内研修を全て実施することができた。校内研修係と情報管理係が協力し、ICTの具体的な活用方法等について研修を重ね、本校教員の指導力向上につなげることができた。	本校職員の自己研鑽につながるような校内研修等を計画・実施し、その成果が、生徒理解や授業実践に生かされるようにしていく。
IV 健康や安全の確保に努めていますか。	6 健康に関する配慮や対応を適切に行っていますか。	⑫生徒一人一人の健康上の配慮や対応について、保護者の90%以上が満足している。	保健指導	A	A	A	心臓疾患や代謝疾患、医ケア対象生徒については、生活管理表等に基づいて管理にあたり、必要に応じて保護者と連携し「個別の緊急時対応マニュアル」を策定した。新型コロナウイルス感染症については、文科省や県教委のガイドラインに沿い、感染症の予防対策を徹底することで、校内での拡大を防ぐことができた。	今後も医療機関や家庭と連携し、生徒が持つ基礎疾患等の管理に努めるとともに、流行性の感染症等については、常に流行状況や具体的対応、処置方法等の情報を提供、共有し、家庭との連携を図りながら、生徒の健康や体調の管理に努めたい。また、予防対策等で必要な物品については、事務局と連携し準備を進めたい。
		⑬健康診断時に疾病疑いがあり、受診を勧められた生徒に関して、保護者及び担任に、受診率（治療率）及び個別の受診状況を年3回以上報告し、保護者面談等で受診を勧めている。	保健指導	B	A	A	受診勧告書や保護者面談で受診を勧めた結果、心臓病などのハイリスクな疾病を持つ者は、全員が医療機関を受診し、医師の指導を受けることができた。また、新型コロナウイルス感染症流行でここ数年低下気味であった歯科治療勧告者をはじめとする各種の受診率が、例年並みまで回復してきた。	医師・保護者と連携しながら、引き続き疾病管理や体調管理に努めるとともに、将来につながる健康維持管理のための保健指導等を充実させたい。また、予防医学の視点から、生活習慣病の理解と予防を促すための健康教育に注力したい。特に歯科については、歯科疾患の治療を推進していくとともに、歯科衛生指導（ブラッシング指導等）をより充実させたい。
	7 危機管理体制が確立され、緊急時への備えができていますか。	⑭危機管理マニュアルをもとに、緊急時の対応策（避難訓練）を年3回以上実施している。	安全対策	B	A	A	災害時の対応組織や避難時の応援態勢、避難経路等を見直し、それに基づき各種避難訓練を計画どおり実施することができた。また、本年度は緊急時の保護者への引き渡し方法を職員間で確認する機会を設け、共通理解を図った。	避難訓練の実施にあたっては、訓練の内容や方法を一部変更するなどマンネリ化を防ぐとともに、実際の状況に即した訓練となるよう工夫を重ねたい。今後は避難訓練だけでなく、事前・事後指導等で活用できる各種防災教育資料等の充実も図りたい。また、保護者と連携協働し、引き渡し訓練を実施したい。
		⑮危機管理に関する職員研修を年3回以上実施している。	安全対策	A	A	A	緊急事態発生時の迅速な対応のため、救命講習（日本赤十字社と連携）、緊急時対応訓練（通報搬送訓練）、不審者侵入時対応訓練（太田警察署と連携）を実施した。また、職員向け夏季研修では、起震車体験（太田消防本部と連携）を実施した。震度7クラスの非常に強い地震を体感することで、大規模地震について考える契機となった。	今後も関係諸機関との連携を図り、危機管理に関する職員研修の実施と充実にも努め、生徒の安全確保及び迅速な緊急対応が図れるようにしたい。
V 将来の生き方に結びつく進路指導を行っていますか。	8 キャリア教育の視点から、指導内容を整理して系統的な指導を行っていますか。	⑯進路学習について、進路講演会等を年5回以上実施し、保護者の90%以上が満足している。	進路対策	A	B	B	進路講演会や各種体験的な研修の内容を見直し精選することで、より充実した学習になるように努めた。保護者のニーズにも寄り添い、新たな内容で実施することができた。	進路講演会や各種体験的な研修等において、より生徒や保護者のニーズに合った内容で実施する。学校行事予定を参考にしながら、計画立案の段階から実施時期を見極め、柔軟に対応していくことが必要である。
	9 保護者、関係機関との連携のもとに発達段階に応じた進路指導を行っていますか。	⑰進路先や関係機関との連携について、保護者の90%以上が満足している。	進路対策	B	A	B	徐々に以前の形で市町村の支援協議会が開催できるようになり、情報交換及び収集する良い機会となった。各関係機関との連携を深めるとともに、最新の情報を発信して保護者へ啓発していく。企業採用担当者学校見学会では、実施時期の状況を予測し計画を立て、6月に実施できた。その後、企業からの見学希望に個別に対応した。	各関係機関との連携を深め、情報交換や収集に努め発信し、保護者への理解と啓発を図る。情勢を見極めつつ、企業との連絡や訪問を行ったり、太田市障がい者雇用創出事業との連携を図りながら、障がい者雇用に対する理解や啓発を行っていく。